地域スポーツクラブにおける大学生のかかわり
―指導後の振り返りによる学生の気づきについて―

Involvement of the University Students to the E-city Sports Club
―Awareness of Students through Review of Post Coaching―

増　山　尚　美
Naomi　MASHIYAMA

北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報　第５号　2014
Bulletin of the Northern Regions Lifelong Sports Research Center Hokusho University Vol. 5

北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報　第５号　（85～93）
Bulletin of the Northern Regions Lifelong Sports Research Center Hokusho University Vol. 5
2014年４月
April, 2014

地域スポーツクラブにおける大学生のかかわり
―指導後の振り返りによる学生の気づきについて―

Involvement of the University Students to the E-city Sports Club
―Awareness of Students through Review of Post Coaching―

増　山　尚　美

Naomi MASHIYAMA

キーワード：地域スポーツクラブ，指導体験，気づき，運動遊び，子ども

Ⅰ．はじめに

2000年9月に策定されたスポーツ振興基本計画では，2010年までに全国の市区町村にひとつ総合型地域スポーツクラブを設立することが目標に掲げられた。江別市ではこれを受け，モデル事業として江別市上江別地区において2004年１月18日に「地域スポーツクラブきらり」を設立した。江別市教育委員会との連携で，江別市地域スポーツクラブ（通称きらり）の一つのプログラムである「ちびっこスポーツ教室」の指導を，2006年度から北翔大学生涯スポーツ学部の学生が行ってきた。

「ちびっこスポーツ教室」は，江別市上江別地区で行われている地域スポーツクラブでの小学校１年～３年生を対象とした運動遊びの教室である。週１回１時間30分の活動を10回ずつ，年間２期実施している。2009年度以降の指導は主に北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科「専門演習」履修者で筆者のゼミに参加している３年次と４年次の学生が当たっている。

Ⅱ．学生の気づき

学生は，指導案作成，指導及び参加者に向けた活動報告のお便り作成を行う。１，２名がメインのリーダーとなり他の参加学生はサブ･リーダーとしてサポートする。

毎回活動後に15分程度の振り返りの時間を取り，子どもの様子や反応，望ましい対応や指導上の課題について学生同士が感想や意見を出し合い，次回の指導に生かすとともに，実践的指導力を身に付けることを目的としている。

本報告では，学生が指導実践を通して何に気付いたか，また気づきの変化について，活動後の振り返りの記録をまとめ，次の４つに分類した。

「子ども」：子どもの様子や反応
「プログラム」：プログラムの内容や難易度，時間配分，使用する用具やルールの工夫など
「指導」：指導した内容や指導力に関すること
「安全」：安全管理やけが等の報告

対象とする期間は2011年度第１期及び第２期と2013年度第１期とする。

実施時期と中心的に参加した学生の数は以下のとおりである。

	期間	参加学生数
2011年度第１期	6/13～9/12	３年次（初　回）10名
2011年度第２期	10/3～2/3	４年次（２期目）８名
2012年度第１期	6/10～9/9	３年次（初　回）９名

Ⅲ．「ちびっこスポーツ教室」の実施内容と学生による振り返り

１．2011（平成23）年度第１期

指導学生：３年生による初めての指導
参加児童：小学１年生７名，２年生７名，３年生５名
１）１回目

実施日	平成 23 年 6 月 13 日
指導者	8 名 リーダーＳ（男），Ｋ（男）
参加児童数	18 名
プログラム	体力測定

(1) 活動内容
①ダッシュ

北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科

②体力測定
　握力，長座体前屈，立ち幅跳び，上体起こし
③鬼ごっこ
(2) 振り返り
・第１回ということもあってか，子どもたちは緊張気味の表情・態度でコーチたちに接していた。〈子ども〉
今後いかにして子供たちの心をつかむかが重要と感じた。〈指導〉
・予定していた体力測定の種目をすべて行うことができなかった。〈プログラム〉
・鬼ごっこの時，衝突等の事故・けがに対する意識が薄く，何度か危ない場面があった。〈安全〉
・水飲み休憩は少なかった。〈プログラム〉

２）５回目

実施日	平成 23 年７月４日
指導者	８名リーダーＳ（男），Ｋ（男），SO（男）
参加児童数	19 名
プログラム	ボール遊び

(1) 活動内容
①手つなぎ鬼
②投げ上げキャッチ，転がしキャッチ
③円陣投げ上げキャッチ
④輪にポン
(2) 振り返り
・時間配分，レベルアップだけでは間が持たない，右手左手とバリエーションを加えた。〈プログラム〉
・子ども同士ぶつかる〈安全〉
・モノを使うと集中力，任せるところ，メリハリ〈子ども，指導〉
・１年生の４人には投げ，捕るに工夫を。〈プログラム〉
・自分がついたグループは課題がクリアできた。できない子に接していない。〈子ども，指導〉
・（リーダーの）集合のさせ方が上手だった。説明時３年生の子ども〈指導，子ども〉
・できる子はつまらなそうだった。飽きちゃう，いろいろな展開を考えた方が良い。〈子ども，プログラム〉
・仲良くなるにつれて喧嘩が始まる。男児Ａと女児M。〈子ども〉
【リーダー】
・今回はボール遊びということで，学年ごとで能力に差があるので段階的に４つに班分けをして１つの班にコーチ２人ずつ配置した。〈プログラム〉
・怪我のないよう注意してもらいながら〈安全〉，子どもたちの能力を見てボール遊びを発展させ，バリエーションを行ってもらったが，時間配分がうまくできず，途中時間が余ってしまった。〈プログラム〉
・子どもたちの特徴としては，ボールしか目に入っておらず，周りの子とぶつかりそうになるなど危ない状況が多々あり，常に目を離さないようにしなければならない。〈子ども，安全〉
・１年生は上手くボールを扱い切れてなく，2・3年生と比べるとやはりボールに慣れていないように思う。〈子ども〉
・また，今後気温の上昇により体育館が非常に暑くなってくるので，汗の処理や水分補給などしっかりさせる必要がある。〈安全〉

３）６回目

実施日	平成 23 年７月 25 日
指導者	５名リーダー SO（男）
参加児童数	19 名
プログラム	ニュースポーツ（フリスビー，ドッジビー）

(1) 活動内容
①手つなぎ鬼
②フリスビー　投げ
③フリスビー　輪とおし
④ドッジビー
(2) 振り返り
・説明不足でぐだぐだになった。〈指導〉
・投げる方向を決めた方が良かった，壁に向かって投げさせる，学年別など。〈プログラム〉
・時間を決めて行う。〈プログラム〉
・うまく投げられない子がいた。〈子ども〉
・暑かった。水分補給が大切。〈安全〉
・静かにさせてから説明する。〈指導〉
・休憩時間が長かった。〈プログラム〉
・リーダーの声が小さい。「集合」の合図が聞こえていなかった。〈指導〉
・ドッジビーで外野のルールが必要。〈プログラム〉

４）８回目

実施日	平成 23 年７月 25 日
指導者	８名リーダー SU（男），SO（男）
参加児童数	18 名
プログラム	ダンス・リズム運動

(1) 活動内容
①エアロビクス
②動物いろいろゲーム
③指ダンス
④フォークダンス（じぇんか）
２）振り返り
・活動にしまりがない。メリハリをつける。〈指導〉
・内容を子どもに説明する時間と休憩が長かった。〈プ

ログラム〉
・エアロビクスの時「右から」というのではなく手で方向を示す方が伝わる。見本を示す役がギャロップの時，指示と逆に動いて，子ども同士が左右の移動でぶつかっていた。〈指導〉
・男児Ｂがフニャフニャしていた。〈子ども〉
・「だるまさんが転んだ」はしっかりやっていた。〈子ども〉
・動物の真似ははずかしいからヤダという子がいた。〈子ども〉
・どうやらせたら良いか。〈指導〉
・水飲み休憩が多く，子どもからも文句が出た。〈子ども〉
指を使って２人一組になる時は４列に集合させて説明したら良い。〈指導〉
【リーダー】
・はじめてリーダーで指導した。コーチがしっかりしないと子どもが飽きて楽しく遊べない。〈指導〉
・動物いろいろゲームの説明がわかりにくかった。〈指導〉

５）10回目

実施日	平成 23 年 9 月 12 日
指導者	３名リーダーＳ（男），Ｓ（女），Ｗ（男）
参加児童数	19 名
プログラム	運動会

(1) 活動内容
①棒鬼ごっこ
②障害物競走（跳び箱，県検波，ミニハードル）
③大玉ころがし
④綱引き
⑤玉入れ（追っかけ玉入れ，お片付け競争）
⑥リレー
(2) 振り返り
・最初のころより慣れてうるさくなってきた。〈子ども〉
・追っかけ玉入れで体に当てられて痛かった。〈子ども〉
・道具を使うと子どもの注意が散漫になる。持つと遊ぶ。〈子ども〉
・用具や道具使用時のルールを明確にする。〈指導〉
・コーチが声を出して子どもの注目を集めたので，しっかり引っ張っていけた。サブリーダーもサポートできた。〈指導〉
・物を使って注意が散った。男児Ｂは物が変わるので飽きなかった。〈子ども〉
・事前準備できていなくて，イメージトレーニングがもっと必要だった。〈指導〉
・指導案を十分把握していなかった。やることを飛ばしたりしたところがだめだった。〈指導〉
・いっぱい物を使ったので，説明時に注目させることがあまりできなかった。〈指導〉
【リーダー】
・道具をたくさん使用したので，子どもたちの集中力が欠けてしまった。〈子ども，プログラム〉
・10回目ということもあり，子どもたちがコーチに慣れてきていたため，注意が散漫になっていた。〈子ども〉
・道具を使用するに当たり，しっかりとしたルールを決めておくべきだった。〈プログラム〉

２．2011（平成23）年度第２期

指導学生：４年生　2010年第１期に続き２期目
４年生７名と３年生「専門演習」履修者のうち３名，および有志の学生２名が当たった。
参加児童：小学１年生８名，２年生６名，３年生７名

１）３回目

実施日	平成 23 年 10 月 24 日
指導者	５名リーダーＯ（女）
参加児童数	20 名
プログラム	なわとびとバランス運動

(1) 活動内容
①長縄跳び（大波小波・郵便屋さん）
②平均台（前後歩き，高さ２段階，ボール・トス・ウォーク）
③平均台（じゃんけんゲーム）
④鬼ごっこ（棒オニ）
(2) 振り返り
・女児Ｎと男児Ｃ２名が転び，頭をぶつけた。〈安全〉
・鬼ごっこはオニをやりたがる子が多い。〈子ども〉
・鬼ごっこ中，端に座っている子がいた。〈子ども〉
・好き勝手にしている〈子ども〉
・（男児）は平均台はやりたかった。〈子ども〉
・（開始の）あいさつをしたい子を募った時に小さく手を挙げている子がいた。毎回同じ人にならないように均等に当てた方が良いか。〈指導〉
・開始前に玄関で待つ間の過ごし方，泣いている子がいた。〈指導〉
【リーダー】
・コーチの人数が必要なプログラムだったので，助かった。〈プログラム〉
・一つ一つの時間が押した。〈プログラム〉
・質問した方が飽きないので，会話を増やすとよい。〈指導〉

２）４回目

実施日	平成 23 年 11 月 28 日
指導者	名リーダーＫ（女）
参加児童数	20 名（欠１）
プログラム	器械運動（マット・跳び箱）

(1) 活動内容
①２グループに分かれて
ａ．跳び箱（跳び乗り跳び降り，開脚跳び）
ｂ．マット（正座からジャンプして立つ，前転・後転，前転立ち上がりボールキャッチ）
②種目交代
(2) 振り返り
・待ち時間があった。〈プログラム〉
・２回目もあきらめずに挑戦する姿が見られた。〈子ども〉
・男児Ｄは見学，男児Ｅは痛いけれどやる，女児Ｎは跳び箱は苦手だが，３段を跳べていた。〈子ども〉
・前転・後転も楽しそうにしていた。〈子ども〉
・跳び箱は最後は３人が７段を跳んだ。６段で台上前転を行った。５段を跳ぶ子供が多かった。〈子ども，プログラム〉
【リーダー】
・レベル差が大きい。できる子は飽きるので，時間配分に考慮が必要だった。〈プログラム〉

３）５回目

実施日	平成 23 年 12 月 12 日
指導者	６名リーダーＳ（男）
参加児童数	21 名
プログラム	ニュースポーツ～ユニホック

(1) 活動内容
①鬼ごっこ（どろけい）
②ユニホック（パス・シュート練習，ゲーム）
(2) 振り返り
・リーダーがしっかりやれていた。〈指導〉
・男児Ｂの仲間外れになる場面があった。〈子ども〉
・競技性があるので難しかった。〈指導〉
・（４チームのうち）黄色とオレンジチームの対戦はラインを出ていても続行させた。〈プログラム〉
・けががなくできた。〈安全〉
・ボールに触れない子の文句が多い。〈子ども〉
・道具を使う競技は事前に約束をして安全に気を付けさせる。〈指導〉
・１，２年生にとっては難しいルールの割によくやっていた。〈子ども〉
・時間配分もよい。〈プログラム〉

４）６回目

実施日	平成 24 年 1 月 16 日
指導者	６名リーダー（指導教員）
参加児童数	17 名
プログラム	ダンス

参加児童
１）活動内容
①ジャンプで鈴にタッチ
②エアロビック・ダンス（リズム運動）
③動物じゃんけん
④ジェットコースター（即興）
⑤風（表現）
⑥ヨサコイ
(2) 振り返り
・（女児）走ってジャンプした後左足首に痛み。〈安全〉
・全体を通して楽しんでいろいろな種目を行えた。〈プログラム〉
・リズム（エアロビック）はちゃんとできていない子がいた。〈子ども，プログラム〉
・種目が多く子供が飽きなかった。〈プログラム〉（サブリーダーとしては）ついていけなかった。内容を把握していれば子供一人一人に教えられる。〈指導〉
・動物じゃんけんで一人だけ遅れる子がいた。子どもによってはむずかしいか。〈プログラム〉
・名札が危なかった。〈安全〉
・おとなしい，会話に加われない子にアプローチしていきたい〈指導〉
・男児Ａと 男児Ｄには気を付ける。〈指導〉
・男児Ａが一番になりたがる。〈子ども〉
・女の子は順番を待っていた。〈子ども〉

５）７回目

実施日	平成 24 年 1 月 30 日
指導者	６名リーダーＹ（男）
参加児童数	21 名
プログラム	ボール遊び～タグラグビー

(1) 活動内容
「ボール遊び～タグラグビー」
①しっぽ取り鬼ごっこ
②タグラグビー
パス（４人円陣で手渡し，ホップパス，パス）
ランニングパス（児童の間にコーチの３人）
ゲーム（４対４）
(2) 振り返り
・女児Ｎは足を挫いた。〈安全〉
・男児Ｄは歯をぶつけた。〈安全〉
・男児Ａ，男児Ｂ，男児Ｅ〈子ども〉
・男児Ａが悔し泣き，ルールがわからずボールを捕られる。〈子ども，プログラム〉
・パスができていない。〈子ども，プログラム〉
・パスしない，チームワーク，どう攻めるか。〈子ども，プログラム〉
・前にパスできないのが変則で難しい。〈子ども，プロ

グラム〉
・男児Ａは危険な行為。〈子ども，安全〉
【リーダー】
・ぶつかるのが強くなった。〈子ども〉
・バドミントンコートは５対５には狭かった。〈プログラム〉
・体で止める。〈子ども〉
・ボールのあるところに集まる。〈子ども〉

６）９回目

実施日	平成 24 年２月６日
指導者	３名リーダーＳ（男），SO（男），Ｋ（女）
参加児童数	19 名
プログラム	雪遊び

(1) 活動内容
①雪上鬼ごっこ
②ソリすべり
③ストラック・アウト（雪合戦から変更）
④宝探し
(2) 振り返り
・雪上鬼ごっこは，コーンの位置をずらしたり，雪玉を投げるなどルールを守らなかった。コーチに雪を投げるなど攻撃的になり，コーチもダメージを受けた。規範や態度の面で課題が残った。〈指導〉
・かんじきがはずれて楽しめなかった〈プログラム〉
・ソリすべりは自由遊びに近く，子ども同士で交代しながら楽しく遊んでいた。しかし，やらない子はやらない。〈子ども，プログラム〉
・ストラック・アウトは１年生と２・３年生とで投げる距離を変えたので，意欲を持って取りくめた。〈プログラム〉
・コーチの人数が足りず，どれが当たったか見てやれないことがあった。〈指導〉
・コーンで示した投げ位置をまもらない。〈子ども，プログラム〉
・子どもから人数差がありすぎてヤダ（不公平）。〈子ども・プログラム〉
・ゲームの終わりがはっきりしなかった。〈プログラム〉
・男児Ａが男児Ｅにからかわれたことに怒りパンチ，気持ちを言葉で伝えるように話した。〈子ども，指導〉
・雪玉を投げる，襟から首に雪を入れてくる，ダメと言っても聞かない，言葉が乱暴，礼儀や挨拶を大切にしたい。〈子ども，指導〉
・女児２名がＳコーチにまとわりつく。〈子ども〉
・返事の声が小さい，注意に対し反抗的で子どもの様子が第１期と変わった。〈子ども〉

７）10回目

実施日	平成 24 年２月 13 日
指導者	５名リーダーＫ（男）
参加児童数	19 名
プログラム	運動会

(1) 活動内容
①しっぽ取り鬼ごっこ
②綱引き
③フラフープ・ダーツ
④リレー
⑤障害物走
(2) 振り返り
・半期ぶりに参加し，自分も楽しかった。〈プログラム〉
・うまく説明できていなかったところは，他のメンバーがフォローしてくれた。〈指導〉
・しっぽ取りはウォームアップとして体を温める点では良かった。〈プログラム〉
・しっぽ取り，疲れて３回は長かったか。〈プログラム〉
・挨拶から締まっていた。〈子ども〉
・男児Ｅと男児Ｆの言葉遣いが気になった。準備運動もきちんとやらない。〈子ども〉
・先週よりずるをする子がいなくなった。〈子ども〉
・１年生男子２名がうるさく，先週よりひどくなった。
・男児Ａが女児Ｏの顔をつかむなど手が出やすい。手伝いを進んでする良い面もある。〈子ども〉
・男児Ｄと女児Ｐは話を良く聞く。〈子ども〉
・自分が自分がと自分優先の子がいる。〈子ども〉
・綱は最初に出しておかず，やる時に出せばよかった。
・綱引き，どこまで引いたら勝敗がつくか先に説明する必要があった（ルール）。最後があいまいになった。女子から男子の数が多いと文句が出た。〈プログラム〉
・フラフープ・ダーツ，球の量が多く，途中でダレて不公平でもあった。数える方も大変だったので，一人５球と決めた。〈プログラム〉
・フラフープ・ダーツ
・リレー，コーチにタッチ。遅い方は別に出すなど調整。〈プログラム〉
・コーンを挟んでタッチする，右手でタッチと決めておくと接触が減る。〈安全，プログラム〉
・得点板の置き方も工夫した。〈プログラム〉

３．2013（平成25）年度第１期

指導学生：３年生による初めての指導
参加児童：小学１年生５名，４回目から７名，２年生３名，３年生６名

１）１回目

実施日	平成 25 年６月 10 日

指導者	９名　リーダーＨ（男）Ｉ（男)）
参加児童数	14 名
プログラム	体力測定

(1) 活動内容
①体力測定（握力, 上体起こし, 長座体前屈, 反復横とび）
②鬼ごっこ
(2) 振り返り
・流れは悪くなかったが，段取りがスムースに出来ていなかった。
・わかりやすく教えるのは難しい。
・体力測定の流れはスムースだったが，終わったらここにいてという指示が出来ていなかった。〈プログラム，指導〉
・（測定をローテーションで行ったが）誰が集合の合図をかけるか決めておいた方が早く回る。〈指導〉
・自分達がやるべき役目を果たしたうえで，子どもたちが楽しめるものだ。〈指導〉
・最後に鬼ごっこは子どもたちも大変そうだった。〈子ども，プログラム〉
・「エー」がただの鬼ごっこ，違うのという反応で，テンションが微妙。〈子ども，プログラム〉
・具体的なことを伝える。〈指導〉

２）２回目

実施日	平成 25 年６月 17 日
指導者	８名リーダーＡ（男）
参加児童数	14 名
プログラム	体力測定・レクリエーション

(1) 活動内容
①体力測定（立ち幅跳び，ソフトボール投げ）
②手つなぎ鬼（タイムか逃げている人が減ってきたら終了）
③大根抜き
(2) 振り返り
・（測定の）流れが前回よりスムースだった。
・前回より楽しそうだった。
・Ａリーダーのしまりが良かった。色々なアイディアがあり，子どもたちも楽しい。〈指導，プログラム〉
・（準備で）名札を並べて置くなどスムースだった。〈指導〉
・流れが良かった。子どもの話を聞きながら，準備したものが出来た。〈指導，プログラム〉
・男児Ｃと男児Ｉは投げが苦手〈子ども〉。
・つまるところなく楽しんでもらえた。〈指導，プログラム〉
・サブの協力があってスムースに出来た。時間配分が丁度良かった。〈指導，プログラム〉
・男児Ｊは活発な子だが，ルールを守らない。〈子ども〉
・リーダーだけでは手が回らないので，皆で注意をしていこう。〈指導〉
＊学生に整列の仕方と私語を注意

３）３回目

実施日	平成 25 年６月 24 日
指導者	８名リーダーＹ（女）Ｓ（女）
参加児童数	14 名
プログラム	なわとび・フラフープ

(1) 活動内容
①なわとび（前跳び，歩き跳び，出来る子は二重跳び，あや跳び）
②フラフープでケンパ
③フルーツバスケット
(2) 振り返り
・サブの協力があった。〈指導〉
・楽しそうで活動量もあった。〈プログラム〉
・種目によって一人でやる方が楽しそう。〈プログラム〉
・動いてもわからないので手順を説明する。〈指導〉
・フルーツバスケットはやめて，最後は自由。〈プログラム〉
・（リーダーは）臨機応変に対応していた。サブの自分は動けていなかった。〈指導〉
・短縄が長すぎたので，事前にチェックし長さを調整すればよかった。〈プログラム〉
・リーダーに対しサポートにならず済まなかった。サポートしていかなくてはならないと感じた。〈指導〉
・サブがいわれるまで動けない。リーダーの説明中にフラフープを落とし騒がしくしてしまった。〈指導〉
・怪我がなくてよかった。〈安全〉

４）４回目

実施日	平成 25 年７月１日
指導者	６名リーダーＮ（男）Ｓ（男）
参加児童数	13 名
プログラム	ボール遊び

(1) 活動内容
①ダッシュ
②ボールハンドリング（頭・腰・足回し，８の字，股下キャッチ）
③キャッチボール（ソフトなボール）
④ドリブル・リレー
⑤ボール鬼ごっこ
(2) 振り返り
・全体的に楽しそう。〈子ども〉
・話を聞けない。〈子ども〉

・サブの助けが良くなった。〈指導〉
・全体の流れは良かった。〈プログラム〉
・キャッチボールで投げる時間が長く，新しく入った１年生２人が疲れていた。〈子ども，プログラム〉
・男児Ｇをセーブしきれなかった。〈指導〉
・（指導に）慣れてきたせいか，ボールを回収してから説明したのが良かった。〈指導〉
【リーダー】
・周りのサポートが良く進めやすかった。〈指導〉
・キャッチボールは説明の手際や位置取りが悪く，ぐだったと反省している。〈指導〉
・ドリブルリレーは思った以上に時間がかかった。リレーは勝敗までできた。〈プログラム〉
・鬼ごっこはサブの動きが良く，楽しくできた。〈指導〉
・ドリブルで見本を見せられた。〈指導〉
・怪我がなく良かった。〈安全〉

５）５回目

実施日	平成 25 年７月８日
指導者	８名リーダーＹ（女）Ｓ（女）
参加児童数	15 名（途中参加の２名追加）
プログラム	器械運動

(1) 活動内容
①ダッシュ
②跳び箱（開脚跳び，とび乗り）
③マット（のそのそ歩き，みんなでぐるぐる，ブリッジ，ゆりかご，前転，後転，出来る人は側転）
④平均台（前歩き，後ろ歩き，じゃんけんゲーム）
⑤大根抜き
(2) 振り返り
・比較的良かった。〈プログラム〉
・時間がなかった。道具を先に出しても危険なので時間がかかった。〈プログラム〉
・マット運動が危険であることを（こどもが）理解していないので，こうすると危ないを認識させるとガチャガチャしない。〈指導〉
・後片付けがスムースだった。〈プログラム〉
・怪我がなく良かった。〈安全〉
・子どもたちも指導者も楽しかった。〈プログラム〉
・最後の平均台が終わったら，片付けとクールダウンと（役割を）分担出来た。〈指導〉
・リーダーたちがいつもより動けていて，意識して準備できた。〈指導〉
・男児Ｇが危ないながら怪我がなかった。（コーチの）ストッパーが聞いた。〈安全，指導〉
・日に日に（指導者の）連携が良くなってスムース。怪我も防げた。〈安全，指導〉
【リーダー】
・サポートが良かった。怪我がなく良かった。〈安全，指導〉
・みな楽しそうだった。〈プログラム〉
・マットが長すぎて詰まった。〈プログラム〉
・跳び箱と平均台は案外出来ていた。平均台の後ろ歩きはすり足が難しい。〈プログラム〉
・後転の補助をしてくれるなどサポートが良かった。〈指導〉
・みな楽しめていた。〈子ども〉

６）６回目

実施日	平成 25 年７月 22 日
指導者	９名リーダーⅠ（女）
参加児童数	16 名
プログラム	ニュースポーツ～フリスビーとドッジビー

(1) 活動内容
①ダッシュ
②フリスビーの投げ・取る（２人・３人）
③的あて
④ドッジビー
⑤鬼ごっこ
(2) 振り返り
・全員参加できるプログラムで楽しくできた。〈プログラム〉
・説明が長く，子どもが聞いていられる時間は短い。動く時間は長かった。〈子ども，プログラム〉
・計画段階でグループ分けが出来ていた点が良い。〈指導〉
・投げが多い種目であるが，怪我が少なかった。〈プログラム，安全〉
・男児Ｈに疲れた。コントロールできなかった。〈指導〉
・男児Ｇが順番をまもらず，男児Ｈの分も取ってやりたがる。〈子ども〉
・６グループ対戦は長かった。飽きて違うゲームを始める子どもがいた。〈プログラム〉
・慣れてきて話を聞かなくなってきた。〈子ども，指導〉
【リーダー】
・子どもがぐだっていた。〈子ども〉
・グループ分けした最初のプログラムは時間配分を考えていた。〈プログラム〉

７）７回目

実施日	平成 25 年８月 19 日
指導者	７名リーダーⅠ（女）
参加児童数	15 名
プログラム	バランスボール

(1) 活動内容
①ダッシュ
②バランスボールを使ったストレッチ
③バランスボール（ドリブル，２人組転がし，座って弾む，座って前後転がり）
④バランスボール　３・４人組で転がる
⑤バランスボール　グループでバランス
⑥リレー
(2) 振り返り
・いす（ボール）取りを一緒に楽しめた。〈プログラム〉
・「話しているときにボールを使わない」というルールをまもっていた。〈子ども，指導〉
・全体的に活動量がある良いプログラムだった。〈プログラム〉
・頻繁に給水タイムをとってよかった。〈安全〉
・Aが注意していたように，最低限のルールを守らせる。〈指導〉
・最初の決まりの確認や挨拶の時に，列を外れて一人出てきた。場を乱さないことが必要。〈子ども，指導〉
・男児Ｉが遊んでいたので注意をしたらボールを投げてきた。ボールがあると投げたり蹴ったりしたくなるので，人に怪我をさせてはいけないことを教える。〈子ども，指導〉
＊子どもに守らせる最低限の共通ルールを確認した。
・体育館では食べ物（ガム）を食べない。
・説明の時におしゃべりしない。
・返事や挨拶をする
・言葉遣いに気をつける
【リーダー】
・メンバーに助けられた。考えていたのと違ってどう動けばよいか想像と違った。〈指導〉
・前半は余裕がなかった。〈指導〉
・怪我があった。〈安全〉

８）８回目

実施日	平成 25 年８月 26 日
指導者	５名リーダーN（男）S（男）
参加児童数	15 名
プログラム	ダンス・リズム運動

(1) 活動内容
①ダッシュ
②ウォームアップ「クラゲ」「遊園地」（表現）
③ダンス「Choo Choo Train」（リズム）
④鬼ごっこ
(2) 振り返り
・難しい種目だったが，最後までできたのが良かった。〈プログラム〉
・自由に暴れていた。次回は抑えてちゃんとできるように。
・見せるより注意することの方が多い。〈指導〉
・ダンスは最初だらけていたが，最後には踊っていた。振付に構わず自由に動いている子もいた。〈プログラム，子ども〉
・３年生４人が話を聞いていなかった。〈子ども〉
・リーダー２人が子どもを掌握していたので，サブの誰かが怒ることがなかった。まとまっていた。〈指導〉
・時間が余らず，楽しんでやっていた。〈プログラム〉
【リーダー】
・男児Ｇが太鼓をはたき落とし，落ち着きがなかったが，けが人が出なくて良かった。〈子ども，安全〉
・クラゲは（指導者が）恥ずかしがってよく見せられなかった。〈指導〉
・ジェットコースターは大きな声を出すのができなかった（声かけをしなかった）。〈指導〉
・子どもがいうことを聞かなくて大変でした。〈指導〉言葉かけが良かった。〈指導〉遊園地は子どもを引き付けた。〈プログラム〉

９）９回目

実施日	平成 25 年９月２日
指導者	７名リーダーY（男）
参加児童数	16 名
プログラム	サッカー

(1) 活動内容
①アップ・タッチ・ボール
②インサイドパス
③インステップ・キック，インフロント・キック
④ゲーム
(2) 振り返り
・指導案に約束ごとの記載がある（のが良かった）。〈指導〉
・指導案作成者が欠席だったが，臨機応変にできた。〈プログラム〉
・怪我はなかった。〈安全〉
・前回より子供が落ち着いていた。〈子ども〉
・リーダーが注意をしていて，危ないところがなかった。〈指導〉
・男児Ｇが注意しても反抗してくる。〈子ども〉
・ゲームの時に荷物やネットに足を引っ掛けそうだった。〈安全〉
・男児Ｄ，Ｇ，Ｈの３人がおだっていた。約束を再確認させたが効果がなかった。〈子ども，指導〉
・ゲームもあったがけが人がなかった。〈子ども〉
・ゴールを決めた後，もう一度ハーフからした方が良

かった。〈プログラム〉
・今日は厳しく接することが出来た。〈指導〉
・効率良く進んだ。子どもも楽しんでいたところは良かった。〈プログラム〉
・男児Ｇは子どもにもやって良い事といけない事は親から言われているだろうが，みんながいると一番になりたい気持ちが抑えられない。叱っていかないとならない。〈子ども，指導〉
・皆がある程度知っていると思って進めていたが，ドリブルが分からない子もいた。ゲームはシュートを決めたらなあなあで行った。〈プログラム〉
・（途中でじゃれあう子がいたのは，）場所が広いというより普段の態度。〈子ども〉

10）10回目

実施日	平成 25 年９月９日
指導者	８名　リーダーＩ（男）Ｈ（男）
参加児童数	15 名
プログラム	運動会

(1) 活動内容
①玉入れ
②綱引き
③大縄跳び
④リレー
(2) 振り返り（省略）

Ⅳ．まとめ

学生が地域スポーツクラブにかかわる意義として，体験を通して指導力を向上させる，子どもの体力向上やスポーツに親しむ機会をサポートする，大学と地域の連携を深め地域に貢献することがあげられる。学生が指導体験を通してどのようなことに気付き，また，経験を積むことで指導力が変化するか，活動後の振り返りにおける学生の気付きによって示した。さらに子どもの様子，プログラム，指導力，安全面に関することの４つに分類した。

指導に慣れていない１期目では，指導言語が指導案の方法やルールのみを説明する指示がほとんどで，説明が長く，始めるまでに時間がかかり，テンポ感や勢いに乏しい。また，子どもと親しくなるにつれ，けじめがあいまいになり，活動をコントロールできなくなる場面もあった。振り返りでは自分がリーダーかサブリーダーかにかかわらず，〈指導〉に関する指摘が多く挙げられた。子どもたちが予想と違う反応を示すと対応に手間取り，活動が停滞してしまう。〈子ども〉の様子もネガティブな面に目が行きがちで，指導者自身の困惑や心配といった感情が反映されている。

２期目になると，〈子ども〉の様子から〈プログラム〉の難易度や楽しめていたかを判断し，ルールを変更したり，場を工夫するなど，子どもの習熟度や状況に応じてプログラムの修正を行えるようになっていた。〈指導〉に関してもリーダーとサブリーダーとの連携がうまくいくようになって，準備や片づけを含め時間を有効に使える様子が見られた。

〈安全〉はプログラムの内容に関連し，「器械運動」や「ボール遊び」のように怪我の危険性が高いときには多く挙げられた。また，子ども同士やこどもと学生の関係が不安定な状況のときにも，強く意識されていた。

付　記

本研究は，平成23年度から平成25年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の助成を受けて実施したものである。

文　献

１）高橋健夫：体育授業を観察評価する　授業改善のためのオーセンティック・アセスメント．明和出版，東京，2003.